

## 第 19 回「化学物質と環境に関する政策対話」

### ディスカッションペーパー

- 1 日時 令和 6 年 2 月 28 日 (水) 13:00～15:02
- 2 場所 AP 品川 ルーム A (Zoom を用いたライブ配信併用)  
(東京都港区港南 1 丁目 6-31 品川東急ビル 8 階)

### 3 出席者(敬称略)

#### 学識経験者

- 浅利 美鈴 (大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所、研究基盤国際センター 教授)
- 亀屋 隆志 (国立大学法人横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授)
- 村山 武彦 (東京工業大学 環境・社会理工学院 教授)

#### 市民

- 有田 芳子 (主婦連合会 環境部長)
- 橘高 真佐美 (オーフス条約を日本で実現する NGO ネットワーク 事務局長)
- 槌田 博 (特定非営利活動法人有害化学物質削減ネットワーク 理事)
- 中下 裕子 (ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議 代表理事)
- 中地 重晴 (熊本学園大学 教授)

#### 労働団体

- 森 裕樹 (日本化学エネルギー産業労働組合連合会 副事務局長)

#### 産業界

- 岩崎 雅彦 (一般社団法人 日本自動車工業会 環境技術・政策委員会 製品化学物質管理部会 副部長、日産自動車株式会社)
- 小田原 恭子 (住友化学株式会社 執行役員、生物環境科学研究所長)
- 大谷 泰久 (日本石鹼洗剤工業会)  
(西條委員代理)
- 三橋 智子 (一般社団法人 日本化学工業協会)  
(須方委員代理)
- 春日 義昭 (アーティクルマネジメント協議会)  
(山田委員代理)

#### 行政

- 菊池 宏海 (神奈川県環境農政局環境部環境課)  
(田中委員代理)

稲角 嘉彦 (厚生労働省 医薬局 医薬品審査管理課 化学物質安全対策室長)  
高村 亜紀子 (厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 化学物質対策課長補佐)  
(安井委員代理)  
神田 浩輝 (経済産業省 製造産業局 化学物質管理課長補佐)  
(西山委員代理)  
吉川 圭子 (環境省 大臣官房 環境保健部 環境安全課長)

#### 事務局

神ノ田 昌博 (環境省 大臣官房 環境保健部長)  
高木 恒輝 (環境省 大臣官房 環境保健部 水銀対策推進室長)

## 4 論点および意見

### 論点 1) 今後政策対話で話し合うべき内容等について

- 法令改正に関する事。法改正があり、その情報を知らないというようなことがあると困る。関係省庁が表などに分かりやすくまとめて説明する。
- 戦略目的 C の「懸念課題の特定・優先化・対応」。SAICM における政策課題等に関して、現在日本の取組みがどの程度の進捗か情報共有する。リスクの特定や低減について議論する。生物多様性の観点を含む。違う価値観を持つ人々が話し合うからこそ意味がある。
- 製品中化学物質の B to C への情報伝達の在り方。知的財産保護の観点を含む。独占禁止法の観点を含む。
- 環境学習・普及啓発。できるだけ多くの方に問題を知っていただくこと。正しく理解したうえで対処していただくこと。教材開発や情報発信の仕方を考えること。
- 市民の視点を意識した運営。GFC については、女性、若者、子供、高齢者、障がい者、化学物質過敏症の方等の、化学物質によってより大きな影響が生じる恐れのあるステークホルダーや、汚染が懸念される地域の住民なども取り残されないようにすること。
- バイオモニタリングデータの活用。
- 毒性の高い農薬の定義や廃絶のプロセスに関する議論。
- 「安全な代替」の制度構築や保証に関する議論。
- 廃プラスチックの回収システム。
- GFC 関連で、どのような指標とするか、国際的な協力をどう進めていくかということについてのインプット。
- 香害。
- 化学物質の複合影響。人健康影響と生態影響。
- 化学物質管理の標準化。水環境、大気環境、土壌環境、室内環境と、それぞれの分野で化学物質の管理について異なった議論がされている。

- アジアとの連携。
- デューデリジェンス。産業界あるいは化学物質管理に関わる活動への金融関係の方々  
の取組み。
- 廃棄物分野の方々の連携や取組み。
- 人権の観点。
- サステナビリティの観点。日本の化学物質のサーキュラーエコノミー実現に向けた課題  
の明確化。

## 論点 2) 以下の主体との連携強化について

- 国土交通省。
- 文部科学省。
- 教育現場の教職員。そのネットワーク。
- 中学生以上の学生。
- 廃棄物分野の方々。
- 金融関係の方々。
- アジア。

## 論点 3) ラウンドテーブル形式での政策対話について

- 皆さまのご意見をまとめ上げていくようなやり方になると、ワークショップのような仕組みの  
方がやりやすい。
- 各主体の取組みが整理されて出てくると、全員の方が発言するのでよい。自分たちがや  
ってきたことについても思い出すことができ、自分の記憶が整理されてよい。

以上